建築ジャーナル11月号

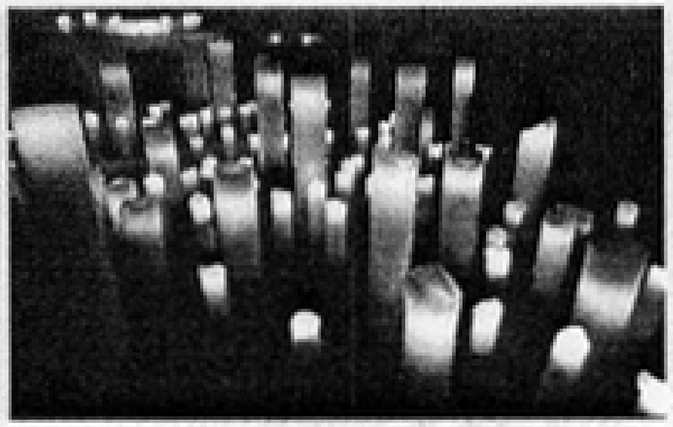
道路計画

下北沢の魅力をキャンドルライトに託して

光の輪で建設反対の意志表明

2003年、幅26mの「補助54号線」が都市計画決定されて以来、計画の見直しを求める声が高まっている下北沢。7月末には、世田谷区長は都に対して事業認可申請を提出。区では「下北沢駅周辺地区　地区計画案」を作成し、世田谷区都市計画審議会での採決をめざしている。

この計画によれば、新しくできる道路や駅前ロータリー沿いでは、高さ60mまでの高層化が認められる。また、東京都も下北沢周辺における用途地域の変更を11月の都市計画審議会に諮ろうとしている。これにより大幅な容積率の緩和が行われることになる。このような26m道路、60m高層化、再開発の波に対抗して、「下北沢を救おう」という動きが連続的に行われている。



神聖なる庭で曽我部恵一やおおたか清流も演奏（左）。キャンドルJUNさんの作品を囲んで（右）

9月23日には、「キャンドルライトデモンストレーション」として、反対の意志表示をする催しが開かれた。

集会は下北沢・世田谷教会の広場。マリア像のある静寂なこの庭も道路建設用地なのである。集まった500人は灯したキャンドルを手にまちへ。「そのろうそくは何？」「道路反対のイベントなんだよ」と会話のきっかけが生まれていく。まちは誰のものなのか。行き交うすべての人のものではないのか。揺れるキャンドルライトはそんな問いかけを発しているようだった。